



行發日九十二月一
(刊休日翌日祭曜日)
番五六四一八〇一京東發報

短歌 憶ひ出草 久野濱司

歌壇にはたよそ縁の遠い
威のある藤沼書記官長が先との二首を褒りものに社民
年警視總監の職を辭された藤沼書記官長が先との二首を褒りものに社民
年警視總監の職を辭された藤沼書記官長が先との二首を褒りものに社民

日暮 篠崎己子夫

別れ小道で
思案して
左へ廻つて
日が暮れる

歌壇にはたよそ縁の遠い
威のある藤沼書記官長が先との二首を褒りものに社民
年警視總監の職を辭された藤沼書記官長が先との二首を褒りものに社民

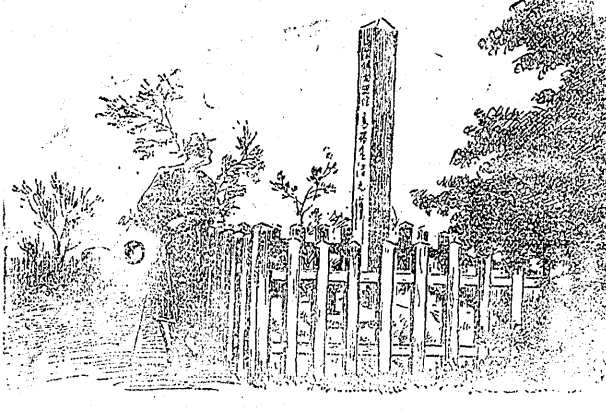
今日訓へ
署名 山
誰でも彼れでもあまり多
知らぬ感徳を人の胸に宿す
ものもある。まして突然の
不慮の兇變に死んで、私淑
し、敬愛し、千載の遺
新つてきた人の新しい墓
標の前に立つ者の心はそれ
が華やかな春であるだけに
より以上の果敢なさを感ぜ
ずにはならぬものがある

高橋是清
(224) 松浦泉三郎作
佐々木今朝百首
終曲 (三)

歌壇にはたよそ縁の遠い
威のある藤沼書記官長が先との二首を褒りものに社民
年警視總監の職を辭された藤沼書記官長が先との二首を褒りものに社民

古郷訪歌抄
追分 作 助
○この浪に幼な友人は居らざりきさみしき冬の
船場を歩く
○海風の吹き頻く丘の砂の蓬冬のみさしさをし
みし思ふ
○急ぎ行く開路ひをかに降りてし雪は汗ばむ
頬に潤れつゝ
○雪晴れて屋根傾りに音立つる雪解の幸陽に
光りつゝ
○雪晴れの朝のすがしき見はるかす遠山嶺の雪
吹まばゆき

高橋是清
(224) 松浦泉三郎作
佐々木今朝百首
終曲 (三)



妖刀流轉 (念々明日)
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に

妖刀流轉 (念々明日)
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に

妖刀流轉 (念々明日)
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に

妖刀流轉 (念々明日)
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に

妖刀流轉 (念々明日)
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に

妖刀流轉 (念々明日)
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に

妖刀流轉 (念々明日)
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に
「備前もの」だけ以外に

おでん
一平
出前迅速
電話二六三番

松村醫院
院長 松村鐵郎
平町南町電一〇七

石城中小商工互融會
事務所 福島縣平町橋本小路一番地

新春賣出し
期間一月十日—一月三十日
上記期間内下記値段にてサービス

互融會事業近況
報告十二月卅一日現在
社員數 五、九三七口

桑原柔道整骨院
電話六七四
平町公園下

旭屋衣裳店
電話四二五番
三丁目

生花教授
須藤まつ子の
電話四六番

謝恩奉仕大特賣
お買上げ壹圓毎に
抽籤券壹本添付!

吸入用酸素
ハシモトヤ糸店
電話一四番

高速編物機
世界に誇る大發明!
日本大婦人雜誌や専門家が絶口を

物價騰貴に逆行して 嬉しい電気料値下げ

前觸れもせず社會政策的改正を斷行 平町でも一月分から實施

早くも叫ぶる、 凶作防止の聲

縣當局で対策指示

區長殺しの捜査進む

新事實を握つたものゝ如く

刑事一たび再び急行す

突發以來柴田區長以下若日午後六時から内郡村小學校の捜査も空しく未檢舉に於て開かれるが同連中

好評の植田澤庵 入山へ一萬貫納入

本年最初の契約成立

故郷への土産に盜む

佐藤畑雄近く公判へ

寒夜に吟す

入山詩吟部寒夜摺古

宣誓式

入山自治會で

不埒なトラ

ボストに倒れ逃走

親娘にまた温い手

けさ匿名紳士恵む

災禍の

家財道具を焼き盡す

天気豫報

今晩は北の風強後晴

自土トモ媪

平町の最高齢者

お醤油は...

山崎合名會社

阿部石炭店

阿部石炭店

丸五丸 衛生丸

腸胃病 腎臓科 皮膚科

山崎合名會社 山崎製糖

お醤油は ヤマフル

急激な出廻りに 木炭が安くなる

合併交渉委員 員選任

乞食活躍の夜 隣縣の奇習

寒夜に吟す 入山詩吟部寒夜摺古

不埒なトラ ボストに倒れ逃走

お醤油は ヤマフル